

図書館だより

2015年7月1日発行



こりしげ 凝重 ゆうか 優香 さんの 作品 (平成26年度市長賞受賞・浅羽野中学校2年)

私がこの絵をかいた理由は、普通図書館には、たくさんの人達がありますが、あえて親子をかきました。昔、母が図書館で本を読んでもくれました。それが印象的で嬉しかったのです。その嬉しい気持ちを絵にあらわしました。

第179号

坂戸市立図書館

ご存知ですか

図書館ボランティアを



多くのボランティアが活躍中ですが、参加の動機や意義などを聞いてみました。

活動グループ

児童サービス
高齢者サービス
障害者サービス
行事サービス
図書館だより編集

子育て中のお母さんに寄り添えれたらと思い、図書館ボランティアに参加しました。読み聞かせを通して、お子さんはもちろんお母さんをつくり出される温かな空間は私自身大きな喜びです。参加してくださる皆様には感謝の気持ちでいっぱいです。おはなし会でお会いできること……楽しみにしています。

児童サービス
岩田恵美



遠く離れた母を思い触れ合い、喜びそして笑顔、心がやさしくなりました。絵本や紙芝居を紹介したり、手遊びなど人のために役立ち生きるのは気持ちが良く私自身元気をもらい楽しんでいます。仲間づくりや交流など、社会とのつながりを求め参加し、自分自身の頭の体操になっています。

高齢者サービスの方々

定年退職後、好きな朗読を通しボランティアなら続くかも?!と音訳ボランティアを志し、丸五年経ちました。月一回の音訳勉強会(あすなろ)を基礎に、対面朗読、雑誌録音、デイジー編集と活動内容も少しずつ広がってきました。又、御利用者さんから生きるパワーを戴くこともおおく、ボランティア活動の奥深さを感じています。

障害者サービス
久保田正子



中学、高校は図書委員でした。定年退職後の社会貢献のつもりです。当館のボランティア登録前に「女の人ばかりですけど」と脅かされながらも何かとこらえて楽しく続けています。

布の絵本の製作をはじめ本の修理やときには本のリサイクル市にも参加しています。

行事サービス 井手和夫

きっかけは市の広報「図書館だより編集委員募集」を見て応募しました。早いもので15年目になります。この会の良さは、取材で訪れる場所で多くのことを学ぶことです。その場所や携わる人たちの話の中で得るさまざまな体験は、私達にとってかけがえのないものになっています。

図書館だより編集

わたしの おすすめ本 *part 2*

読書のための読者が選んだ本を
みなさんに紹介するコーナー

募集中
本好きのみなさん！
幅広い分野でのおすすめ本を紹介
してください。（図書館窓口まで）



紹介者 岸澤英明さん（本町）

職漁師伝

溪流に生きた最後の名人たち
戸門秀雄/著 農山漁村文化協会

著者は入間市在住、幼少より川と親しみ、現在、川魚と山菜の郷土料理を営む。溪流魚や季節の山菜を求めて、今も全国各地を巡る。この本は、そんな折々に見聞した川魚を糧として、昭和の時代を生きた各地域の



職漁師について語ったものだ。坂戸の高麗川にも、鮎や小魚漁を生業とする職漁師はいた。遠い記憶の中に、川魚を買う母の姿を見ている。

紹介者 大竹小百合さん（関間）

なぜイヌの鼻はぬれているの？

ノアの箱舟のふしぎはなし
ケネス・スティーブン /著 西村書店

何故イヌの鼻は濡れているのか？この本はイヌの忠実さを表す本です。昔、ノアという人がノアの箱舟を作り大雨から生き物たちを乗せた。が、船は穴が開いてしまい困ったノアはイヌの鼻を穴に当ててその場をしをいだ。イヌはノアの為に頑張って耐えた。以来、犬の鼻は濡れてヒンヤリしているそうです。



絵本

紹介者 Bさん（図書館職員）

白球ガールズ

赤澤竜也/著 角川書店

女の子は甲子園にでることができないと知った由佳。野球に区切りをつけた由佳だ。だが、もう一度野球をやりたいという思いから、女子野球部に所属し、再び始めることになった。果たして由佳の思い描いていた野球ができるのか？…仲間とともに夢を追いかける姿が目に見え、心に残るような作品です。



紹介者 早坂さん（図書館職員）

ノラヤ

内田百閒/著 中央公論新社

古い話なので読みにくいかもしれませんが、ペットを愛する人に、また、これからペットと暮らそうと考えている人にもお勧めしたい一冊です。家族と暮らしていた猫のノラが突然いなくなってしまった後の、飼い主である作者の愛するものを失った悲しみによる行動や感情をストレートに描いたお話です。



★ わたしのおすすめ本

紹介者 中村正子さん(三光町)

火花
又吉直樹/著 文藝春秋

日常生活の中で、人それぞれの生き方の様子を赤裸裸に描き出され、人との出会い、又その中での関わり合い、そして主人公「徳永」が模索しながらも生きる姿が、ごく自然体で読み終わった後に目に見えない力が湧き、人の忠を貫き通す、共感出来た小説です。



絵本

紹介者 Aさん (学生)

かいじゅうたちのいるところ
モーリス・センダック/著
じんぐうてるお/訳 富山房
小さいころ何度も母親によんでもらったお気に入りの本の一つです。独特の絵が読者を物語の世界へ引きずり込みます。主人公マックスのように旅に出たとき突然、家や大切な家族が恋しくなる気持ちは共感できるとおもいます。映画化もされているロングセラーです。



紹介者 久保田正子さん(西坂戸)

ひなた弁当
山本甲士/著 中央公論新社

主人公・芦溝良郎はリストラされ「駄目人間」と自ら卑下し追い詰める。そんな良郎の運命を変えていくのは“公園のドングリ”。ドングリを調理し賞味した彼は、タンポポなど、野草や川魚などを採取し調理の巾を広げる。その中で「生きぬくすべ」を知る。採取活動で出会った人たちとのエピソードや調理場面など心が弾んでくる本です。



紹介者 井上えいこさん(泉町)

人間、やっぱり情でんなあ
竹本住大夫/著 文藝春秋

文楽の鬼と呼ばれることに「私が鬼なら昔の師匠方は何になるのか」というほど厳しい稽古を積まれた住大夫さんの、ご自身の来し方を語る。上品な大阪弁を堪能しているうちに、文楽の基礎から成り立ち、勘所までわかってしまう本です。昨年引退したことは残念ですが、しっかり教えていただきました。あとは劇場へ行くばかり！



紹介者 横山久美子さん(塚越)

げんきなぬいぐるみ人形ガルドラ
モドウィナ・セジウィック/著 多賀京子/訳
福音館書店

名は体を表す。と言いますが、ガルドラはけっして可愛いとは言えないメリーベルの人形です。メリーベルのお散歩の時一人だけ部屋に忘れられたり、いとこの男の子に放り投げられ屋根の上ののっけられたり。それでもガルドラは、自分の置かれた境遇を楽しみます。決してめげないガルドラに脱帽！



児童書

「本当のこと」を伝えない日本の新聞
マーティン・ファクラー/著 双葉社

3・11東日本大震災の時、メディアはどこも同じ情報だけを流し続けました。著者は日本取材歴12年の新聞記者。権力を監視するのがメディアの役割。どこを切っても同じ金太郎飴のような横並びの情報だけを流す日本の「記者クラブ」の問題を解きあかす。著者はピューリッツァー賞のファイナリストを受賞している。





ほしにむすばれて

谷川俊太郎著/文研出版

ゆうやけは よるのはじまり
 ゆうやけを ぬぐと そらは
 はだか
 うちへ かえるこどもたちに
 あおぞらが かくしていた
 ほしぼしを みせる
 ゆうやけは うちゅうの ドラマのまく
 をあける どんなドラマかな……



はじめての

ほしぞらえほん

村田弘子著/パイインターナショナル

月や星を見つけた喜び、
 心のときめき……。
 宇宙の不思議をこどもたちが
 さらに深く理解できるように、
 まとめられた本。
 季節の星座を中心に紹介した、
 興味が湧いて来る一冊です。



お知らせ



親子で楽しむ

大平さんの星空&プラネタリウム教室

☆とき
 ☆内容

8月7日(金)

- ・プラネタリウムの投影
- ・星空と宇宙の不思議
- ・プラネタリウムづくり

※教室開催に合わせて星の本を紹介します。

宇宙ランキング

データ大辞典

布施哲治監修/くもん出版

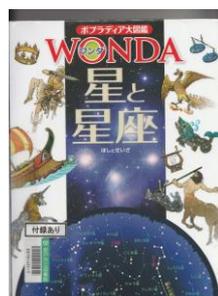
天体や宇宙に関する様々な
 事ごらをいろいろな「ものさ
 し」でランキングするという
 新しい切り口で展開。近くで
 見ることや、体験出来ない天
 体、宇宙の事ごらも、「順に
 並べる」「比較する」という
 視点を加えると、
 実感をもって理
 解できます。大き
 さ、重さ、密度、
 個数、距離、温
 度更には形、色、うず巻き具
 合など、いろいろなものさし
 で、見せてくれます。



星と星座

渡部潤一監修/ポプラ社

こどもの本ではめずらしい
 南半球の星座を紹介!
 「星座を見つける」方法をわ
 かりやすく紹介!
 随所に大迫力の写真を掲載!
 ぜひ晴れた日の夜、図鑑を片
 手に夜空を見あげてみてく
 ださい!



あべ のぞみ
阿部 望さんの作品

(平成26年度 教育長賞受賞 南小学校6年)

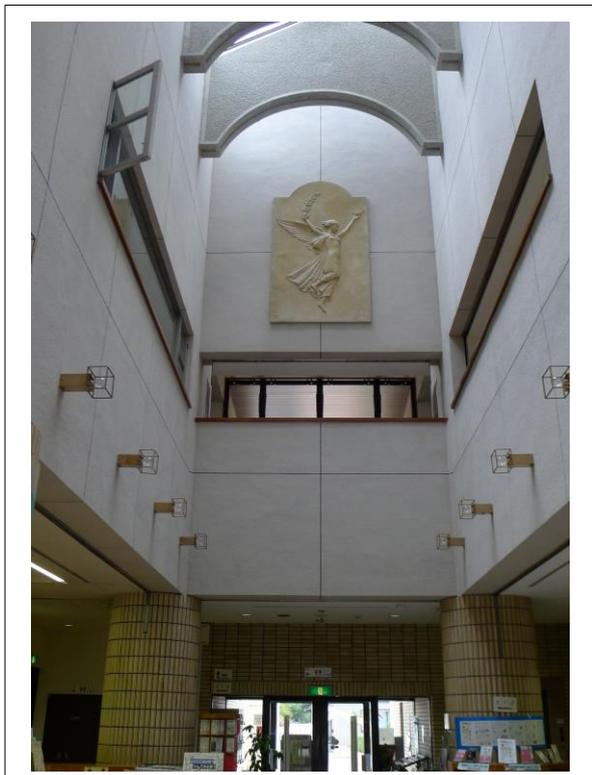
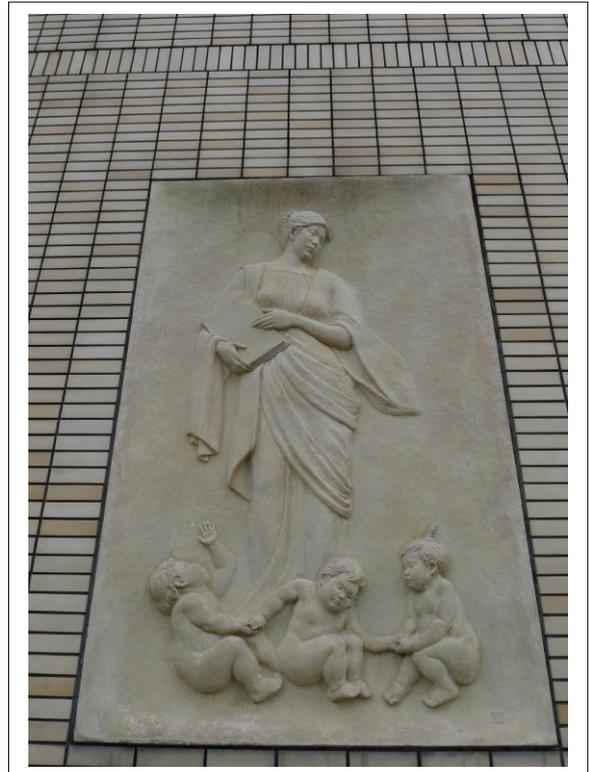


読み・学ぶ私たちを見守るもの・・

図書館の表通りに面した壁面と、館内のエントランスホール（吹き抜け）の東西に飾られたレリーフを知っていますか？

外壁にある母子像は「知情意」と題し、足もとの幼児3体がそれぞれ知・情・意を表しています。書を抱いた母像は完成された教養と人格を暗示させ、高みから子らに慈しみの視線をおくっているように見えます。

エントランスホールのレリーフは「学」と題し、天女が右手に月桂樹、左手に燭台を掲げ、羽衣をまとって天を舞う姿。私たちに学ぶことの希望と喜びを永遠に与え続けます。



これらはいずれも、市内柳町にお住いの彫塑作家「館山謳粹：たてやまおうすい」氏（日彫展会員）の作によるもので、開館以来およそ30年にわたり、図書館のイメージ・シンボルとして、ここに集う私たちを静かに見守っているのです。

図書館を訪れたときは、足を止めてレリーフを見上げてみてください。レリーフが語りかける声に耳を澄ませてみてはいかがでしょうか。

◆追記 本市図書館の創成期に多大な貢献をいただいた館山先生は、去る4月22日永眠されました。ご冥福をお祈りいたします。